

氏名：河上繁樹

氏名のローマ字表記：KAWAKAMI Shigeki

所属：大阪学院大学国際学部教授

専門分野：染織史、服飾史

発表のタイトル（日本語）：チンギス・ハーン博物館所蔵資料「モンゴル宮廷衣装」に関する学際的研究

発表のタイトル（英語訳）：Interdisciplinary Research on "Mongolian Court Costumes" from the Genghis Khan Museum Collection

発表要旨（日本語で 600 字～800 字程度）：

三島海雲記念財団により、2024 年度の共同研究として採用された、同タイトルの研究成果をいち早く、モンゴル学会会員に届けるための発表である。

共同研究者 8 人は、代表を務める発表者のほか以下の通り。

チョローン（チンギス・ハーン博物館館長）、小山弓弦葉（東京国立博物館）、桑原有寿子（九州国立博物館）、宇野伸浩（広島修道大学）松田孝一（大阪国際大学）、井関和代（大阪芸術大学）、鳥丸知子（九州女子大学）。染織の専門家群と歴史家との学際研究である。

うち 2 人（宇野と松田）はモンゴル学会会員であるが、発表は本研究の代表者が行う。

同共同研究の目的は、個人コレクションから 2023 年にチンギス・ハーン博物館に移管された、元代貴族衣装を対象にして、「ナシジ」と呼ばれる金糸織を用いた衣装について、科学的に分析し、今後の保存・修復方法をモンゴル側に助言することであった。結果的に、修復はしない方が望ましいと判断され、一般的な保存方法についてモンゴル人を招聘する研修プログラムを実施した。

上着として原型をほぼ止めているという点で極めて貴重な衣装である本資料について、今回、サンプリングした 2 つの断片について放射性炭素年代測定をすると、11 世紀半ばから 13 世紀初頭と測定されたため、資料そのものは 13 世紀以前と判断される。また、金糸からタンパク質の成分が検出されたため、羊の腸膜ないし皮を芯に使っていると想定される。これまでナシジと呼ばれてきた金糸を用いた織物の全容を具体的にモノを通じて見ることができる。

※大会運営委員会より

本発表は、河上氏、松田孝一氏（大阪国際大学名誉教授）、宇野伸浩氏（広島修道大学教授）連名による発表になります。